

公正な再分配とは何か——ロールズと伊藤の議論から日本の税制を考える

1. 研究の目的と背景

本研究の目的は、ロールズの正義論および伊藤恭彦の「タックス・ジャスティス」を手がかりに、現代日本の税制を「公正」の観点から再検討することである（伊藤, pp.105,197）。現代社会では、「自己責任」や「競争社会」といった価値観が強まり（伊藤, 2017 年, pp.202-203）、格差や排除が拡大している。こうした状況において、税を単なる財源確保の手段ではなく、人間の尊厳を守る仕組みとして考え直す必要がある（伊藤, 2017 年, pp.104-105）。

2. 原初状態と無知のヴェール

ロールズは、公正な社会制度を導くための思考実験として「原初状態」と「無知のヴェール」を提示した。この状況では、当事者は自らの社会的地位・階級、生まれもった才能や知力、心理的傾向、属する世代、社会の経済・文化水準といった情報を知らされない。こうした偶発的事情から自由になることで、自己に有利なバイアスを排除した制度設計が可能となる（ロールズ, 2023 年, pp.575-576, 579）。人々は自らの社会的地位や才能を知らない状態で制度を選択するため、特定の立場に有利な原理を主張できず、最も不利な立場に配慮した原理、すなわちマキシミン・ルールが選ばれる。この枠組みは、社会的弱者の尊厳を守る制度の正当化根拠となる（伊藤, 2017 年, pp.104-105）（齋藤・田中, 2021 年, pp.59-60）。

3. 公正な税制度とは

伊藤によれば、税制度の正当性の出発点は「人間の尊厳の維持」にある（伊藤, 2017 年, pp.104-105）。税は単なる財源確保の手段ではなく、尊厳と平等を支える制度であり、公共サービスを先に定め、必要な財源を後から確保する「量出制入」の原則が重要である（伊藤, 2017 年, pp.105,197,203）。税は、富の集中やリスクの個人化を是正し、「ともに生きる社会」を実現するための制度として位置づけられる（伊藤, 2017 年, pp.105-106）。

4. 脆さに基づく連帯への税制度

伊藤は、「自己責任」や「強さ」を強調する言説を批判し、人間は本質的に脆く、他者との支え合いなしには生きられない存在であると指摘する。真の強さとは、弱さを認め、連帯する力であり、税や社会保障はこの「脆さに基づく連帯」を制度化する仕組みである（伊藤, 2017 年 pp.202-204）。

5. 再分配の理念

伊藤の「タックス・ジャスティス」は、富裕層課税を通じて力の格差を是正し、教育や福祉といった普遍的サービスを支えることを目指す。富裕税・資産税・相続税などの再分配的課税は、市場が生み出す不公正な構造を是正するために不可欠である。ロールズと伊藤はいずれも再分配の必要性を認めるが、ロールズが最低限の保障を重視するのに対し、伊藤は富の集中を直接是正する積極的な再分配を主張している点に違いがある（伊藤, 2017年,p.105）。

6. 原初状態から見た税制の再設計

原初状態の視点から考えると、消費税中心の日本の税制は、低所得層に不利である。これに対して、所得税の累進性強化や富裕層課税の強化、再分配制度の充実は、無知のヴェールのもとで合理的に選ばれる可能性が高い。この視点は、日本の税制を公正かつ持続可能な方向へ見直す手がかりとなる（齋藤・田中,2021年,pp.59-60）（伊藤, 2017年,pp.194-195,197）。

7. 現在の日本の課題と改善策

現代日本では、税の社会的役割への理解が十分とは言えず、「税を払いたくない」という意識が強まっている。今後は、税と社会保障の関係を明確にし、税金の使い道を市民に分かりやすく示す行政の責任が重要である。同時に、市民自身も選挙や署名、勉強会などを通じて、公正な分配をめぐる議論に主体的に参加する必要がある（伊藤, 2017年,pp.197,200）。

8. 結論

ロールズと伊藤の議論から、公正な税制の方向性として、富裕層課税の強化、消費税中心の税制の見直し、普遍的社会サービスの充実が導かれる（伊藤, 2017年,p.194）。税を「社会への投資」かつ「弱さに基づく連帯」の仕組みとして捉え直すことが重要である（伊藤, 2017年, pp.197,200, 203）。自分がどの立場になるか分からないとしたら（齋藤・田中,2021年,pp.59-60）、どのような税制を選ぶのか（伊藤, 2017年, pp.197,200）。この問いに向き合うことこそが、公正な再分配への第一歩である。

参考文献

- 伊藤恭彦『タックス・ジャスティス——税の政治哲学』風行社, 2017年
齋藤純一・田中将人『ジョン・ロールズ：社会正義の探究者』中央公論新社, 2021年
ジョン・ロールズ『正義論（改訂版）』紀伊國屋書店, 2023年